

教育の基本は親子の交はり

“教育”と言へば、今はたいていの人がこれを“学校”のものと考えてみます。それほど“教育”は今は“学校”におんぶしてゐる所が多いのです。しかし、教育はもともとは家庭のものでした。

“教”といふ字は、旧字体では“教”であり、さらに古くは𡗗^{カウ}でした。つくりの“攴”はボクニョウと呼ばれ、「手に物を持った形」を表したもので、この字の古い形の“攴”は“父”といふ字の古い形と全く同じ形をしてゐます。

“𡗗”は「物が交はった形」を表した符号で“交はる”といふ意味を表してゐるから、“𡗗”と“子”と“父”とがら成る“教”は「父と子と交はること」を表した文字であると考へられます。昔は、たいていの家が、住居であると同時に仕事場でもありました。ですから、子供はいつも父親の傍らに遊んでゐて、父親のする仕事を見ながら生長して行きました。長ずるに従ひ、仕事をする父親の一挙手一役足を見様見真似^{マニシ}でやってみて、それが家業を継ぐための腕を磨く“教育”だったのであります。

さて、“教育”は、うける者の立場から言へば“学習”となります。今、“学”といふ字を“まなぶ”と訓んでゐますが、古語では“まねぶ”と訓んでゐました。“まねぶ”とは“真似ぶ”とも書き、それは今の“真似る”こと

です。ですから、「親のする事を見て真似る」ことが“学ぶ”ことの本義であり、“教育”の原点なのです。

ついでに言ひますと、“学習”の“習”は、“羽”と“白”とから成つてゐますが、この“白”は今の“百”といふ字の古い形です。つまり、“白”といふ字は、“白い”といふ意味と、数字の“百”といふ意味とを兼ねてゐたのです。後に、この二つを区別するために、数の方は数字の“一”を加へて“百”としたものです。

だから、“習”の“白”は本当は“百”なのです。卵から孵^{ひら}った雛が親鳥の羽ばたくのを真似て羽ばたくのが“学”ですが、それを百回も2百回もくり返して羽ばたくことが“習”といふことなのです。雛鳥は“学”だけでは決して飛べるやうにはなりません。飛べるやうになるのは“習”の結果です。“学”だけでは能力は育たないのです。“学”は“習”を重ねて始めてその価値を高めるのです。

私は今の学校教育を観てつくづくと思ふのですが、学校教育には“学”があるだけで、肝腎の“習”が無いのです。これでは能力が育つわけがありません。頭の働きの俊敏な子供には可能であっても、普通の子供やそれ以下の子供には到底出来ることではありません。「今の中学生の7割は落ちこぼれてゐる」と言はれてゐますが、それは当然の帰結でせう。

昔は、十分とは言へないまでも“習”がありました。「読書百遍、意自ら通ず」と言はれてみて、子供たちは皆、書物をくり返しくり返し読まされたものです。それは学校においてだけではなく、家に帰ってからも子供たちはくり返しくり返し書物を読んだものです。ですから、たいていの子供が小学校だけで世に出ましたが、それでも今の大学生よりも確かな読み書き能力を身につけてみたものです。